

平成 30 年度山口市市民活動支援センターさぽらんて事業報告

(平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日)

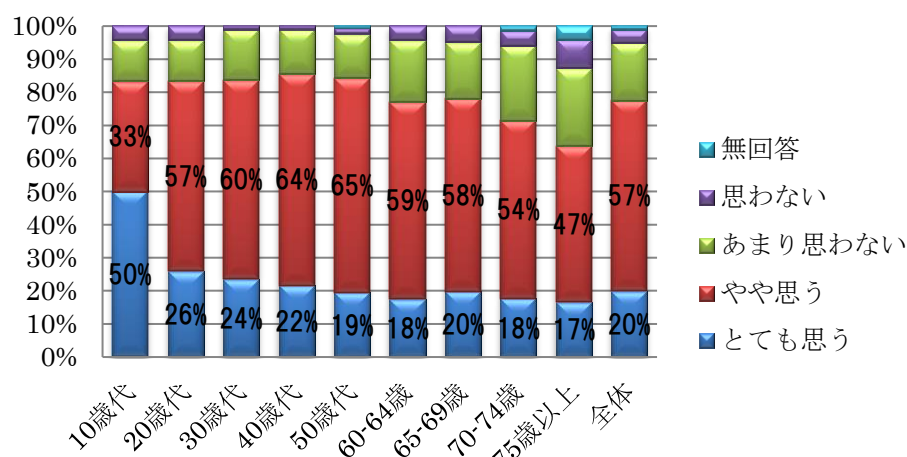
I 平成 30 年度さぽらんての主な事業の分類

市民活動団体の人材確保、多様な財源確保に向けての基盤強化が進まないという課題を踏まえて、NPO への伴走支援や相談などの基本支援の他、以下を中心に事業を展開。

- 1 市民活動への参加のきっかけづくり
- 2 市民活動と地域をつなぐ支援
- 3 市民活動団体への活動・運営支援

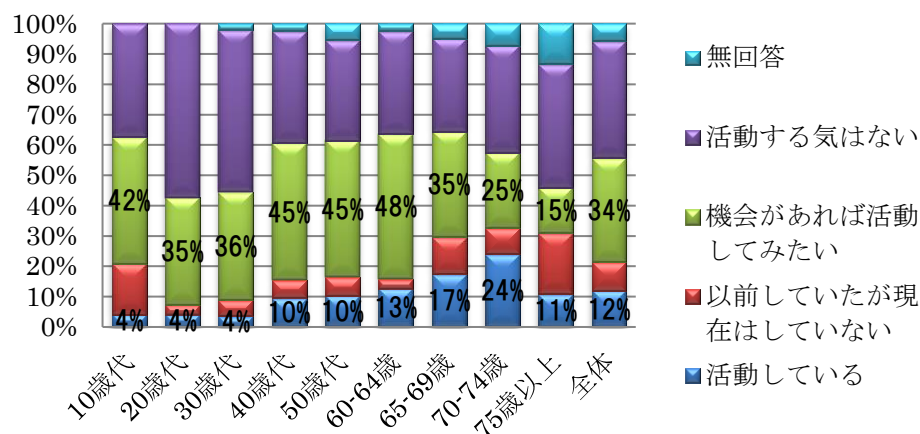
1 市民活動への参加のきっかけづくり

社会貢献意欲



平成 29 年度の山口市のまちづくりアンケートによると 10 代、20 代の社会貢献したい思いは、「とても思う」「やや思う」割合は、合せて 83.3%と非常に高い。一方市民活動・ボランティア活動をしている人は、10 代 20 代ともに 4.2%に留まっている。今後、社会貢献意欲があり、市民活動・ボランティア活動をしてみたいと考えている人たちを自然に巻き込んで行けるきっかけが重要と考え、事業を実施した。

市民活動・ボランティア意欲



(1) 若者（大学生）のボランティアコーディネート <13P-15P>

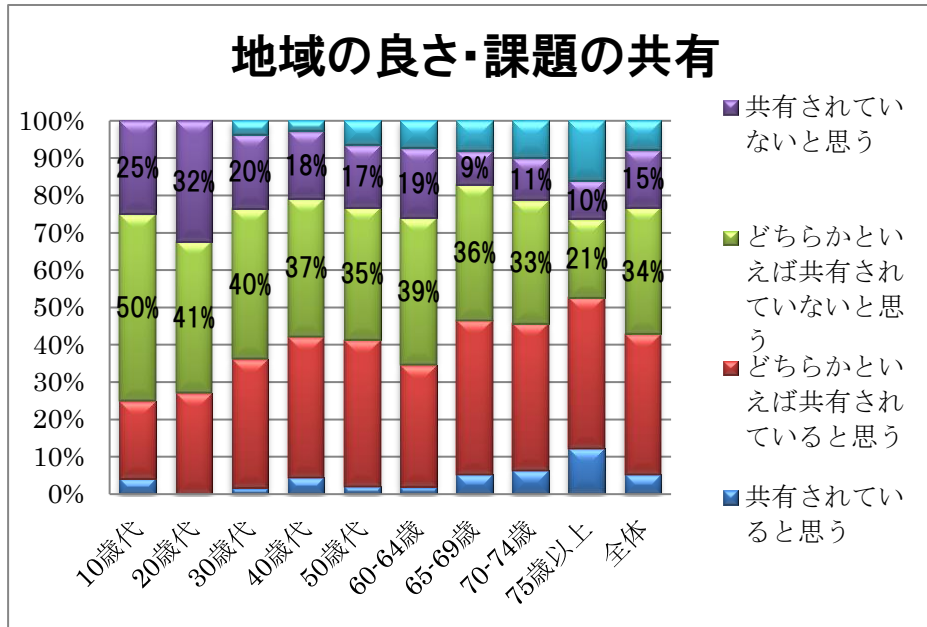
市民団体のチャリティイベントに大学生ボランティアを募集し、インターンシップを積極的に受け入

れるなどして、地域や市民団体と大学生をつないでいった。33名の学生の参加があった。

(2) その他

山口市のまちづくりアンケートにある市民活動やボランティア活動を「以前やっていた」「機会があればやってみたい」という人たちを対象に、市民活動を身近に知ってもらえるように、ホームページへ団体情報の発信や、SNSの活用、漫画を用いた気軽な情報紙「ええやん新聞」を発行した。相談対応においても市民からのボランティアをしたいのだがという相談も多く、団体とマッチングしていった。

2 市民活動と地域をつなぐ支援



平成29年度の山口市のまちづくりアンケートによると地域の良さや課題について「共有されていないと思う」「どちらかというとは共有されていないと思う」割合は、10代75%、20代73%と平均の49%を大きく上回り、若い世代への巻き込みの重要性を感じた。最初のステップとして、地域住民が課題を中心にして対話できるワークショップや円卓会議をコーディネートしていった。

このことにより、今後地域行事へ小学生や中学生ボランティアの巻き込みにつながることを期待。

(1) 大内コドモジカプロジェクト <15P-17P>

大人も子どもも地域との関わりが希薄になりつつある今日。子どもを真ん中に地域のつながりを呼び戻そうという地域交流センターや地域づくり協議会と連携したプロジェクト。今年度は4町内会で実施し、子どもの参加、大人のボランティア合せて461名の参加となった。

(2) 小鯖未来カフェ【カタリバ】 <18P>

平成29年度から地域で実施されている「小鯖未来カフェ」の中で、若い参加者同士の語り合い、自主企画の実践を地域担当者とともに支援。今後の継続した活動となっていく。

(3) その他 <18P-19P>

地域支援に向けて、地域を知るためにセミナーへの協力（15回のべ28名）や、協働推進課と共に地域訪問（39回のべ42名）を行った。

3 市民活動団体への活動・運営支援

(1) セミナー開催 <10P-11P>

公共を担っていくための「社会的信頼を得られる継続的活動」に向けて、情報発信力とマネジメント力に重点をおいて講座（2回）、研修（6回）、伴走支援（28回）を行った。

(2) さぼカフェ【ひきこもりから社会とのリコネクション（再接続）を考える】 <17P-18P>

上記をテーマに4市民団体、関係機関2か所、行政担当5課（山口市3課、県2課）が集まり、3回の円卓会議を実施。立場が違ひきこもりの支援者のネットワークが形成された。今後も引きこもり支援するNPOが中心となり継続予定。

(3) 支え人。～企業×NPO のつながりプロジェクト～ <11P-13P>

今年度も3NPO法人に対し、8社から237,102円の寄附を頂く。これまでの合計1,197,026円
この他、テーマに対する連携企業や自動販売機設置企業4社。

(4) その他 <11P>

相談対応を基本とし、市民活動団体への伴走支援を行った。相談においては、情報発信に関するもの、助成金に関するものが多い。

Ⅱ 委託契約に基づく事業報告（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

【基本目標】

「個性豊かで 活力のある 自立した地域社会」に向けて

- ①市民の市民活動への参画を促進すること
- ②NPOの活動基盤の強化、NPOの自立を促進すること（公共を担う団体の育成）
- ③広くNPO・地域コミュニティ・企業・行政とのパートナーシップを図り協働によるまちづくりを推進すること

上記を基本目標に契約書・仕様書に基づき「施設管理機能」「普及・啓発及び情報収集・提供機能」「相談機能」「人材発掘・養成機能」「協働促進・ネットワーク機能」「事務局支援機能」別に以下のとおり実施。

1 施設管理

山口市中心商店街へ設置された拠点機能（ハード）を活用した支援機能（ソフト）となるため、市民活動団体への支援を中心に幅広い利用者を想定し、下記の対象別エリアを設定し対応。

【対象別エリア】

○市民の自由な情報交差点（入口オープンスペース）

一般市民が自由に入館でき、情報収集しやすいレイアウトに。また、入館しない市民へも配慮し、ショーウィンドーを活用し、チラシ展示なども行った。

○団体の自由な活動形態を応援（会議室・2階ワークスペース・和室）

会議・講座はもちろん、専用事務所を持たない市民活動団体の作業場としても、出来る限り活動しやすい方法で柔軟に対応した。

○気軽に相談できる場（1階拠点管理事務スペース）

職員に気軽に相談できる雰囲気을大切に、登録団体との情報交換や気づきの共有を心がけた。

(1) 開館日

水曜日及び年末年始（12/29～1/3）を除く毎日

開館日数：308日

閉館日数：57日

(2) 開館時間

9:30～18:00



※利用団体の講座などの準備に合わせて、スタッフは9時より出勤

登録団体の時間外利用は 柔軟に対応

(3) 各種手続き書類の配置

①市民活動団体向け

- | | |
|---|--|
| ☐ 登録市民活動団体への提供サービスのしおり | ☐ 市民活動団体登録・変更用紙 |
| ☐ 会議利用報告書 | ☐ ブログ反映機能申請書 |
| ☐ 印刷機利用カード | ☐ 機材借用書（貸出） |
| ☐ 持込みイベント申込書・報告書 | ☐ インターネット使用簿 |
| ☐ 窓口業務依頼申請書 | ☐ 学生ボランティア依頼書 |

②内部用

- | | | |
|---|----------------------------------|----------------------------------|
| ☐ 相談カード | ☐ 機材貸出予約簿 | ☐ 拠点利用予約簿 |
| ☐ 日計表（日別集計表・累計表・月別平均表） | ☐ 職員業務日報 | |

2 普及・啓発及び情報収集・提供

積極的に情報収集を行い、市民活動の意義、社会課題の共有というメッセージ性を大切に発信した。商店街にある拠点を活用し団体紹介のミニポスター展示をするなど、来館される方への普及・啓発も充実させ、ホームページへの支援情報、団体情報、講座レポートなど引き続き情報集積にも力を入れた。

また、市民目線のカジュアルな情報紙「ええやん新聞」を子育て世代の社会貢献意識の啓発を目的として、市内幼稚園、保育園、小・中学校へ配布のほか、一部地域への回覧とした。

円卓会議やコドモジカプロジェクトなど事業実施後はホームページ上にレポートを掲載するとともにかわら版も作成し、事後の広報にも努めた。

(1) 市民活動に関わる情報の収集及び整理

①山口市内の市民活動情報

団体ごとの個別ファイルを作成。

②NPO支援情報

③市外の市民活動情報

①～③の市民活動に関する情報をファイルし、閲覧できるよう整備。また、団体向けには年間助成金一覧表を、分野別、締切日別に作成し掲示。

(2) 広報紙等の発行

1年間の市民活動支援の事業報告や円卓会議などのかかわら版を発行し支援内容を伝える他、団体が人材不足の課題を抱えているため、市民向けの啓発紙「ええやん新聞」にも力を入れ、市民と市民活動をつなぐ発信を心がけた。編集作業には市民広報スタッフを巻き込み、社会課題の当事者意識を広げる市民目線を大切にした。

①さぼらんで事業情報

○さぼらんでの平成29年度の事業報告ダイジェスト版

【対象】 登録団体・地域交流センター・関係各所

【発行部数】 600部

【形態】 A4サイズ 4P 手刷り

○さぼらんでの平成30年度の事業方針及び事業一覧



【対 象】 登録団体・地域交流センター・関係各所

【発行部数】 600 部

【形 態】 A5 サイズ 4P 手刷り

○さぼらんてかわら版

さぼらんて事業後に内容をわかりやすくまとめたものを発行

ア. さぼカフェかわら版 ～ひきこもりから考える社会とのリコネクション～

【対 象】 市民、登録団体、地域交流センター、関係各所

【発行部数】 700 部

【形 態】 A4 サイズ 4P 手刷り

②助成金情報

ア. さぼらんてからのおいしい助成金情報の発行

【対 象】 市民活動団体向け 隔月発行（年6回）

【発行部数】 600 部

【形 態】 A4 サイズ 両面 手刷り

イ. 助成金情報メルマガ

紙媒体では伝えていない情報も追加し、全ての情報の助成元にリンクを張り、毎月メール送信

【対 象】 メルマガ登録団体および担当者 19 団体 22 件

③ええやん新聞

平成 29 年度山口市まちづくりアンケートによると、市民活動やボランティア活動（NPO 活動）を行っている市民の割合は全体の 11.9%と低いものの、「以前やっていた（9.5%）」「機会があればやってみたい（34.2%）」と回答した市民を合わせると 43.7%で市民活動予備軍ともいえる潜在市民は半数近くいることが推測される。身近な社会課題とともに、市民活動や市民主体の取り組みを市民目線で発信し、特に子育て世代の新しい価値観との出会いや気づきを刺激し、まちづくりへの参加・参画のきっかけを創出し、誰もが心豊かに暮らせる山口を目指す市民を増やすことを目的としている。

年2回、幼稚園、小・中学生に全員配布、地域へも回覧するなどして 30,000 部発行。

【実施ポイント】

○市民活動をより身近に感じ、共感につながるよう市民広報記者による「市民目線」での発信を行った。

○市民広報記者と発行目的を常に共有し、軸がブレない紙面づくりを心掛けた。

○記者自身の「知りたい!」「伝えたい!」「おもしろそう!」の直感を尊重した。

○市民広報記者の研修、テーマごとの勉強会など必要に応じて行った。

○毎号1面では、テーマに沿った社会課題に取り組む「個人の思い」を発信した。

○モニター制度を導入し、読者の生の意見感想をもとにさらなる紙面の充実を図ると共に、ターゲット世代の動向の情報収集を行った。

○まちづくりや社会課題解決に向けた初めの一步のハードルを高くしないよう、市民活動だけでなく地域や個人の活動、取り組みなどもあわせて紹介した。

【対 象】 市民（主に子育て世代想定） 年2回発行（9/末、2/初）

【発行部数】 18・19 号 各 30,000 部

【配 布 先】 市内公立幼稚園、小・中学校、21 地域交流センター、子育てひろば、一部地域回覧、他関係各所

【形 態】 タブロイド判 カラー印刷

【HP 発信】 PDF でホームページ上での閲覧を可能にした。

【テ ー マ】 18 号：特集～グリーフ（悲しみ）に寄り添う～

- 1P：ええやんピープル 山根和子さん＜グリーフサポートやまぐち代表＞
 2-3P：小さく生まれた赤ちゃんのために（NICUママネットのびっこ）
 転勤族で山口に来た人を支える（monte bocca）
 遺児による遺児のための活動（あしなが学生募金事務局）
 子どもたちのグリーフに寄り添う（グリーフサポートやまぐち）
 4P：もうひとつのグリーフケア活動（Dog ケアハウス伝）
 レシピ「あげ野菜のカラフルマリネ」
 さぼらんととは、クイズ、編集後記

19 号：特集～子どもの成長を見守るまなざし～

- 1P：ええやんピープル 上村早苗さん＜認定 NPO 法人支えてね트워크＞
 2-3P：起立性調節障害！？マンガエピソード（情報提供者幸徳七海さん）
 自分を責めて悩む親にほっと一息つける場を（起立性調節障害を考える親の会カフェ）
 不登校当事者の回復までの困難さをすごろくで解説（NPO 法人フリースクール AUC）
 子ども自ら学び方を選べる社会の実現へ（Happy Education）
 自然の中で学ぶ土曜学校（NPO 法人もりのこえん）
 4P：地域レポート嘉川編
 レシピ「米粉のさくさくクッキー」
 さぼらんととは、クイズ、編集後記

【成 果】

市民意識の啓発、市民記者の人材育成を以下のとおり評価

■読者アンケート集計

18 号	項 目	%
	より身近に市民活動を感じた(理解・関心が高まった)	14
	社会課題(特集内容)について考えるきっかけ、共感につながった	62
	情報提供を活用	3
	はじめの一步につながる勇気、元気、やる気につながった	0
	さぼらんとでの周知につながった	0
	その他	21

「グリーフ」という耳慣れないことばを、自分に置き換えて理解したという感想が目立った。同じ境遇の人を支えようとする活動があることに対し、心強さや安心感を得たという声も聞かれた。

19 号	項 目	%
	より身近に市民活動を感じた(理解・関心が高まった)	9
	社会課題(特集内容)について考えるきっかけ、共感につながった	53
	情報提供を活用	12
	はじめの一步につながる勇気、元気、やる気につながった	9
	さぼらんとでの周知につながった	0
	その他	17

地域で不登校児童を支える体制があることに安堵する声や情報の活用、社会問題として身近に感じるという声があったこと、取材団体への相談・問合せもこれまで以上の反響

があったことは大きな成果。

■市民記者感想（今年度より、関わってくれた新米記者のコメント）

初めての製作会議、取材、記事作成とすべてが刺激的でした。中でも直接お話をうかがう取材時には、たびたび心を動かされました。地域のため未来のために、そして自分と同じように困っている人のためにと、活動を始め続けていく。その情熱や行動力に感動し、もっとたくさんの方に伝えたいと感じるように。どうしたらええやん新聞を一人でも多くの方に読んでもらえるか。記事を書くだけで精一杯だった私に、今そんな視点が加わっています。来年度も新たな出会いや学びを通して、私自身がどのように変化し、2019年ええやん新聞が読者にどんな変化を生み出すのか、今からワクワクしています。

■今後に向けて

企画、編集、発行、モニター会議等の情報紙作成の一連の流れを地域にも活用できるように体制づくりにも力を入れたい。

④活動インフォメーション

毎月の市民活動情報の中から一般市民が馴染みやすい情報を選定し、紙媒体として発行。商店街のちらし入れなど、広く市民の目につくところに配置。

【対 象】 市民向け 毎月発行

【発行部数】 偶数月 1050 部、奇数月 660 部

【形 態】 A4 サイズ 両面 手刷り

（３）ホームページ

昨年度のリニューアルに引き続き、団体情報やＦＢ情報も見やすくテンプレートの修正を行った。また、地域情報のポータルサイトとして地域版カレンダーを新設した。

アクセス数は、15,343 件（42 件/日）。実人数 8,866 人。（ＨＰリニューアルにより、カウント方法が以前と条件が異なる。）

①まちサポ広場（電子図書館）の市民活動団体利用

登録団体（311）の基本データは全て掲載。

	H30 年度	H29 年度	H28 年度	H27 年度	H26 年度
利用団体数	311	307	297	301	290
更新団体数	52	52	64	53	55
年間記事数	1,362	1,766	1,982	1,467	1,625

（４）情報交流コーナーの活用（「さぼらんて」前面フロア）

①市民活動紹介コーナー 団体紹介ミニポスターを作成し掲示。

②助成金コーナー 展示場所を前面に出し PR。

③NPO法人情報コーナー NPO法人格取得に向けて情報などを設置し、掲示がマンネリ化しないようにレイアウトを随時変更するとともに、市民活動等に関する情報を分野に分け、見出しやコメントをつけて掲示し啓発。



(5) マスコミ等の活用

報道機関へ広報紙の配布及び事業ごとのプレスリリースを行い、団体の活動が新聞記事や TV ニュースにも取り上げられた。

(6) 市役所ロビーなどにおける市民活動出張展示

さぼらんて入口に常設の「市民活動紹介ポスター」は、初めて来館された方が興味深く見る人が多い。写真やキャッチコピーで団体の活動内容が一目でわかる「市民活動紹介ポスター」を日頃来館する機会の少ない市民に向けて、外部会場に展示することで、団体情報の提供および、市民活動啓発のために開催。転入出時期に市役所ロビーで展示を行うことで、新たに山口市民になった人へ、まちづくりの意識向上や参加へのきっかけを促し、市民活動への理解を深めてもらうことが狙い。

今回は、ブルーライト山口さんが LIUB(ライトイットアップブルー)発達障がい啓発週間(4月2日～8日)のイベントの広報を独自値で展示され、来館者の目を引いた。さぼらんての広報紙ええやん新聞は毎年人気で今回も持ち帰りが多かった。



【展示内容】

- ・ さぼらんて広報紙等(ええやん新聞、さぼらんて事業報告・事業予定、コドモジカンかわら版など)
- ・ 登録団体活動紹介ミニポスター62団体
- ・ 団体パンフレット 20団体 25種

【展示場所】

開催日：平成30年3月15日(木)～4月13日(金)

場 所：山口市役所ロビー

【その他の展示】

イベント：山口県パートナーシップ会議

開催日：平成30年11月23日(金・祝)

内 容：市民活動紹介ポスター、団体パンフレット等展示

登録団体にも声かけを行い、HappyEducation、ブルーライト山口、グリーサポート山口が展示

(7) その他

商店街に立地している強みを活かし、団体の持ち込みイベントを8団体が年間46日間実施。それぞれの活動のテーマごとの課題を発信。



3 相 談

市民活動支援の基本を相談に置き、多様な相談に対応。特に運営相談は、寄り添い支援を基本に必要な場合は専門家と連携し対応していった。

また、商店街に設置されていることから、市民からの活動相談等も半数以上を占め、個人の活動への相談対応や、市民活動団体との橋渡しも行った。

(1) 相談・問い合わせへの対応

市民の市民活動への参加や市民活動団体の活動充実のために対面・電話・メールによる相談に応じ、助言を行い、内容によっては、他機関・窓口を紹介しマッチング。

○相 談 件 数 5 1 4 件 (来所 344 件、 電話 170 件)

○問い合わせ件数 2 2 0 件 (来所 132 件、 電話 88 件)

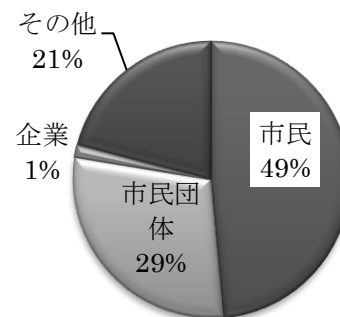
※職員の相談カードに記載された特記事項のあるものの件数は 468 件 (グラフ集計総数)

【対象別相談内訳】

対 象	件 数
市民	227
市民団体	136
企業	7
その他	98
合 計	468

市民からの相談が 49%。商店街に位置していることから市民の活動への気軽な相談場所となっていることが伺える。

対象別相談等の件数

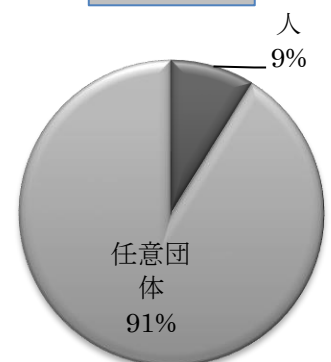


【団体からの相談内容種類別内訳】

団体分類	内容	件数	
NPO法人	運営	3	12
	活動	9	
任意団体	運営	16	124
	活動	108	
合 計		136	136

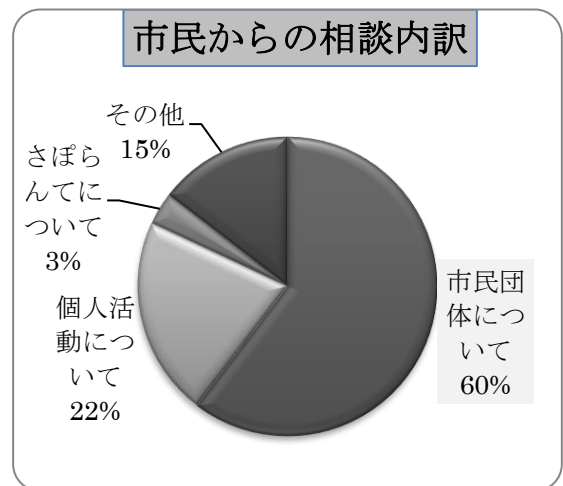
団体からの相談は、任意団体からの活動の相談が8割近くを占める。内容は、ブログや情報発信に関するものと助成金に関する相談が多い。

団体分類



【市民からの相談内容内訳】

内 容	件数
個人的活動について	49
さぼらんてについて	8
市民団体について	137
その他	33
合 計	227



昨年まで相談の大半を占めていた犬猫に関する問合せ・相談が団体の解散とともに大幅に減少（昨年度 152 件→今年度 64 件）。昨年夏にフードバンクポストが設置され、フードバンクに関する問合せが増えている。個人的な活動についてはその多くがボランティアをしてみたいというものになっている。

（２）相談・問い合わせの内容の一覧化

寄せられた相談・問い合わせ内容を一覧化し、NPO法人等対象別に相談内容を取りまとめ、分析し相談内容の予測を行うとともに、必要な情報や知識等の蓄積に努め相談対応に反映。

４ 人材発掘・養成

公共を担っていくための「社会的信頼を得られる継続的活動」に向けて、情報発信力とマネジメント力に重点をおいて、講座、研修、伴走支援等を行った。昨年度に引き続き県の「中核的人材育成事業」を受託し、協働に向けてのマネジメント力の強化も行った。

企業×NPOのつながりプロジェクト「支え人。」や伴走支援を通じてNPO法人の多様な財源確保・マネジメント力を支援。

全ての講座において、講座レポートをホームページにアップし、団体支援の情報として蓄積していった。

（１）講座・セミナーの開催

①活動充実講座

	講座・研修	日付	講 師	参加者
1	スマホ de 写真	6/12 10-12	菓子谷 梨沙氏	2 団体 2 名
2	文章構成の基本・団体プロフィール	7/3 10-12	竹岡 絵美氏 (株)無限	8 団体 15 名

②人材育成セミナー等（※山口県受託業務）

	連続研修	日付	講 師	参加者
1	中間支援者マネジメント基本研修	7/23 10-16	モジョコンサルティング 合同会社代表 長浜 洋二氏	17 団体 49 名
2	中間支援者伴走支援実務研修	7/24 10-16		17 団体 49 名
3	ソーシャルマネジメントセミナー	9/24 10-17		14 団体 44 名
4	伴走支援&補講	8/27 10/29		11 団体 42 名

5	システムコーチングセミナー	9/25 10-16		13 団体 25 名
6	ソーシャルマネジメントセミナー 成果発表	11/23 9. 5-12		12 団体 28 名
7	山口県パートナーシップ会議での花博ボランティア取材報告	11/23 13. 5-16	インターンシップ学生	54 団体 103 名

【人材育成セミナー振り返り】

最終的に伴走支援まで行った団体は 7 団体であり、その中に地域コミュニティや、社会福祉協議会などが含まれていた。このセミナーにより、現在も継続して、市民活動団体同士、さぼらんと市民活動団体や地域コミュニティ、社会福祉協議会と支援などの情報交換ができて、より強い社会変革に向けてのネットワークが構築されたことは成果として大きい。

(2) NPO マネジメント支援

ソーシャルマネジメントセミナーの伴走支援を 5 団体に 5 人のスタッフで行った他、訪問サポートや相談対応の中での寄り添い支援、アワードへの推薦をおこなった。

①訪問サポート（おでかけさぼらんと）28 回

日時	内 容	団体種類	スタッフ
4/13	事業課題の整理	任意団体	1 名
4/17	団体立ち上げ支援	任意団体	2 名
7/2	山口県立大学ソーシャルワーク演習参加協力	任意団体	1 名
6/26	総会立ち会い	任意団体	1 名
6/30	さぼカフェ後のフォロー&団体マッチング	NPO 法人	2 名
7/28	県域でのひきこもりに関する円卓会議への協力	NPO 法人	2 名
8/3-11/19	ビジョン・課題整理、事業計画書作成まで（5 回）	NPO 法人	各 1 名
8/23	課題整理のためのヒアリング	NPO 法人	1 名
9/11	事業課題の整理	NPO 法人	1 名
10/4-11/17	ビジョン・課題整理、事業計画書作成まで（3 回）	NPO 法人	各 1 名
9/28-1/20	認定 NPO 法人に向けての支援（2 回）	NPO 法人	各 1 名
10/25	課題整理のためのヒアリング	NPO 法人	1 名
10/28	行政担当課との情報共有会議	任意団体	1 名
10/30	課題整理のためのヒアリング	任意団体	1 名
1/21-3/26	NPO 立上げ支援（3 回）	任意団体	各 2 名
2/18	NPO 立上げ支援	任意団体	1 名
3/5	ひきこもり支援者ネットワーク会議	NPO 法人	2 名
3/7	団体会議へアドバイザーとしての参加	任意団体	1 名
3/14	ブログ立ち上げ相談	任意団体	1 名

②アワードへの推薦

「チャレンジやまぐち！地域貢献賞」などの推薦を行った。

(3) 企業×NPO のつながりづくりプロジェクト「支え人。」

5 年目を迎えて、閉業した個人事業主の方があったものの、それぞれ NPO と企業のつながりは深く安定し、よいパートナーとなってきている。

【平成 30 年度実績】

寄 付 金 総 額 237,102 円

4 年間の寄付総額 1,197,026 円

エントリー NPO 法人：①認定 NPO 法人こどもステーション山口
②認定 NPO 法人支えてねネットワーク
③NPO 法人あっと

協力企業：① (株)メルシー
② 木のおもちゃ専門店 リンドヴルム
③ Natural Therapy Bru (ナチュラルセラピーブルー)
④ (有) 寿司やす
⑤ オリジナルフラワーブレンドティーRingLink
⑥ ヨガルーム Bugen 華
⑦ (株)モリイケ
⑧ (有) BAY TOKYO

その他の連携：NPO 法人山口せわやきネットワークへの「こどもの貧困対策連携企業」提携企業 3 社、自動販売機設置企業 4 社。



【参考】【山口市の NPO 法人の寄付金額別法人数等】

寄付金額	H29 年度	H28 年度	H27 年度	H26 年度	H25 年度
0	29	40	28	27	22
1～50,000	15	13	18	15	14
50,001～100,000	7	7	6	4	5
100,001～500,000	9	7	10	12	13
500,001～1,000,000	2	4	2	2	2
1,000,001 以上	5	4	4	4	5
合 計	67	75	68	64	61

※有効対象法人数

事業報告書未提出、新規認証のため提出なし、活動計算書上の経常収益ゼロの法人をのぞいた数。

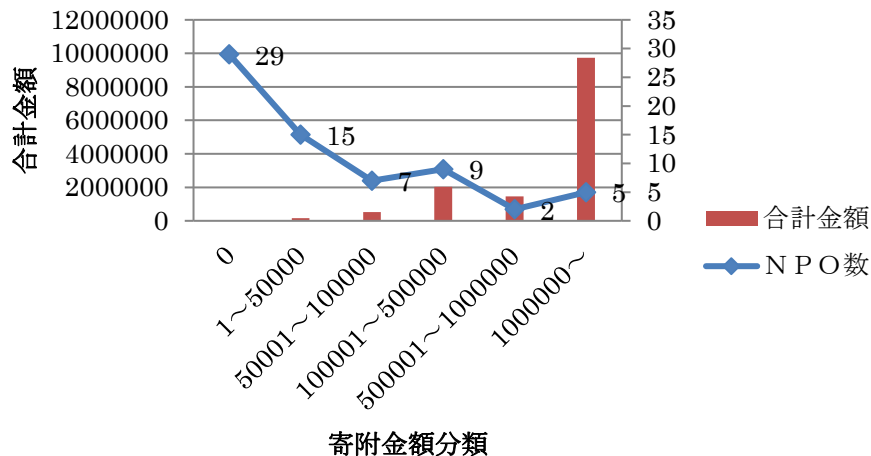
H29 年度：67/84 法人 H28 年度：75/83 法人 H27 年度：68/83 法人

H26 年度：64/78 法人 H25 年度：61/80 法人

【山口市内の NPO 法人の財源内訳】（平成 29 年度事業報告書が提出されている 67 法人）

項目	金額（円）	%
会費	17,348,808	1.2
寄附金	13,913,119	1.0
助成金	28,333,185	2.0
補助金	18,436,141	1.3
事業収益	1,321,739,759	93.0
その他	21,655,773	1.5
合計	1,421,426,785	100

NPO法人寄付金額別団体数一覧



○全体収入にしめる寄付金収入の割合はわずか1.0%

○寄付金収入あり 38 法人 (56.7%) そのうち寄付金額 50 万円以上 7 法人 (10.4%)。

今後もNPOの財源安定に向けて、寄付を受けられる組織づくりを行い、市民の参加の手法としての寄付を啓発していきたい。

(4) 若者の社会貢献の機会提供およびボランティアコーディネート事業

平成29年度に実施した「山口市まちづくりアンケート」において、「社会のために何か貢献したいと思いますか」(29年度からの新規項目)の問いで、「とても思う」「どちらかといえば思う」と回答した市民は77.4%いた。なかでも、10代、20代は高く、実に83.3%が社会貢献に一定の意欲を示している。

日本の若者は諸外国と比べて、自己肯定感が低く、「自分自身に満足している」者の割合は5割弱。特に10代後半から20代前半にかけて諸外国との差が大きい。また、社会課題への関与や社会参加についても、日本の若者の意識は4割強で諸外国に比べ最も低い。(2014 内閣府調べ)

背景として、他者に自分が必要とされていると実感できない、自分が人の役に立つという体験や達成感の少なさ、社会貢献教育を受ける機会や社会貢献参加の機会が少ないことが言われている。

そこで、若者ボランティアを必要とする市民活動団体とつなぎ、社会課題や社会貢献の意義に触れる機会と参加の場を提供するとともに、双方が共通の目的・目標をもって社会課題解決に向け活動できるようにコーディネートを行った。

日 時：8月6日・7日(15時半～21時半)

場 所：さばらんて

内 容：市民活動団体、学生ボランティアによる東日本復興支援のためのチャリティ屋台実行委員会を立ち上げ、山口七夕ちょうちんまつりの夜にチャリティイベントを開催。



①オリエンテーション

団体から：被災地の現状、課題、活動のきっかけ、活動目的、内容、今後の展望などの紹介

学生から：参加の動機、団体への質問

②山口市伝統の夏祭り山口七夕ちょうちん祭

りの設営(ちょうちんの火入れ)体験

③チャリティポップコーンの販売

参加者：りす会山口および山口災害救援 6名

学生ボランティア 14名

その他協力：山口の街並を着物で歩こう会（浴衣レンタル、着付け）2名

チャリティ売上金額：69,400円（※全てをりす会の活動費へ）

実施ポイント：

- ・イベント開始前に、参加者全員でオリエンテーションとミーティングを兼ねた食事会を行いチームとして交流を深めるとともに、団体より被災地の現状や、活動への思いなどを語ってもらい、目的を共有した。
- ・売上目標、や役割を分担することで作業効率を上げ、責任感を持たせた。
- ・さぼらんて HP で活動レポートをアップし、事業報告、お礼とした。併せてりす会のブログをリンクさせ寄附金の使途が見えるようにした。
- ・学生にボランティア活動証明書を発行。

成果：30年度は各地で豪雨災害が相次ぐなど、りす会、山口災害救援ともに活動は多忙を極めた。被災直後から今もなお継続し、慰問、写真洗浄など復興に向けて切れ目のない支援にあたっている。被災地の状況や被災者の生の声を知るこのような団体の存在は大変貴重で、若者に社会貢献の意義を伝えるのに大変有効である。参加した学生の感想には「自分が行なったことが西日本災害の助けになる」「復興支援に少しでも協力できているという嬉しさがあった」とボランティア活動を通して、被災地に思いを寄せるきっかけとなっただけでなく、人の役に立つことへの喜びを感じる声が聞かれた。今後も、チャリティ屋台に限らず、ボランティアやインターンシップの学生へ社会貢献の場を市民活動団体の協力の元、提供していく。

（5）インターンシッププログラム

山口県インターンシップ推進協議会や直接の申込みを受けて2名のインターンシップを受入れた。

また、県立大学の「地域学習」の中で12名の学生、各60時間の実習を市民活動団体とコーディネートし受け入れた。

【インターンシップ受入】

1回目

日時：8月24日（金）～8月27日（月）5日間

対象：北九州市立大学 経済学部 経済学科 1名

2回目

日時：9月20日（木）～9月25日（火）5日間

対象：山口大学 経済学部 経営学科 1名

内容：オリエンテーション…NPO・さぼらんてについて

ワーク：寄付・社会貢献ワーク、スタッフ心得

体験：団体訪問ボランティア体験、HP入力作業、ミニポスターづくり、さばロッチ未来カフェ参加、学生円卓会議参加、ブログ発信 等

成果：毎回大学生の充実度も高く好評なプログラムとなっている。地域貢献の在り方や自分に求められるものを深く考える機会になった様子。団体訪問先の協力体制も良く、学生の特技を活かした関わりをコーディネートしてくれた。今後もこのような機会を増やしていくことが、市民活動への理解を広げることになると確信したので、もっとたくさんの市民活動団体と学生との接点を設けていきたい。

【地域実習コーディネート】

期間：6月9日（土）～11月24日（土）



対象：山口県立大学国際文化学部 12名 各60時間

協力団体：認定NPO法人支えてねネットワーク、NPO法人市民プロデュース、認定NPO法人こどもステーション山口、認定NPO法人山口せわやきネットワーク（こども明日花プロジェクト）

成果：一度に12名の受入は初めての試みであり、コーディネートをするにあたっての日程調整が困難であった。報告会でのワークショップを、別のインターンシップ学生にリーダーとなって回してもらったことで学生同士気負わずに話せる環境ができた。

【その他の受け入れ】

日時：8月28日（火）13-17

対象：山口市協働推進課受入のインターンシップ学生5名を受け入れ、ワークを行った。

（6）学生と地域をつなぐコーディネート事業

これまでさぼらんてにインターンシップにきた学生などを中心に「Sapo-Trigger」を結成。

学生ならではの自由な発想と行動力を生かした学生の自主企画を地域で展開することをサポート。

【大内地域コドモジカンプロジェクトへの参画】

対象：学生3名

内容：①地域のつながりを深めるプログラム「コドモジカンプロジェクト」の企画を考える

②地域に向けて各プログラムをプレゼン

③選ばれたプログラムを他の学生も協力して進める。「サイエンス」が選定された。

④講師の調整、下実験などの準備などを学生が協力して行う

⑤8月7～9日の夏休みの子どもの居場所で、3回実施。司会進行とも学生が行う

⑥地域が行う「コドモジカンプロジェクト反省会」に参加

【ゆめ花博ボランティアインタビュー＆報告】

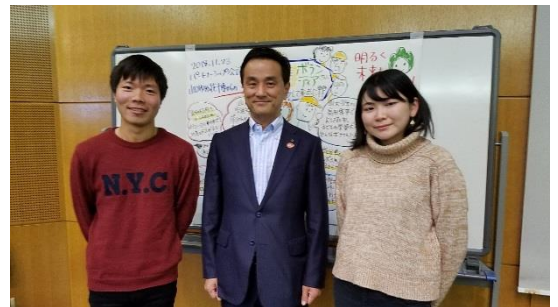
対象：学生2名

内容：①事前打ち合わせ

②10月12,15,22日：ゆめ花博会場のボランティアへインタビューに行く

③11月12日：映像に合わせて、当日の様子を山口県パートナーシップ会議で発表するためのリハーサル

④11月23日：山口県パートナーシップ会議でのゆめ花博ボランティア取材報告発表



5 協働促進・ネットワークに関する業務

山口市の第2次協働推進プランでは、「地域を思い、人々が集い行動する地域経営へ～共に話し合い、共に汗をかく～」をスローガンに、たくさんの人の意見を反映して地域づくりがすすむように、話し合いの場づくりを推進している。さぼらんてにおいてもこれまでの多様な主体が集う円卓会議を一層積極的に展開した。

（1）大内コドモジカンプロジェクト（3年目）

大人も子どももインターネットの普及により、限られた関わりの中だけで生活し、地域との関わりが希薄になりつつある今日。核家族化、共働き世帯の増加によりその傾向はますます強くなっている。山

口市では全世帯の 8.1%が一人世帯。経済格差による学力低下の負の連鎖が深刻な問題となっている。これらの問題を家庭や行政、学校だけでなく地域の力で支えていけないかという思いからこの事業に組むことになった。

地域と共有しつつ、今年度は4地区で実施し、子どもの参加、大人のボランティア合せのべ461名が参加した。

①目的：地域で子どもを見守り、居場所、学び、体験の場づくりをすることで、住民同士の結びつきを強化し、その力で地域の子どもたちを育むことを目的。

②内容：

中村地区

主 体：中村地区自治会

日 時：9月29日（土）12月16日（日）

内 容：お菓子づくり、ダイガラ餅つき体験

場 所：山口合同ガス、大内地域交流センター

参加者：のべ69名参加

御堀地区

主 体：御堀自治会

内 容：餅つき体験&昔話紙芝居

日 時：2月3日（日）

場 所：御堀公民館

参加者：のべ43名

氷上地区

主 体：氷上自治会中心

日 時：8月7日（火）、8月8日（水）、8月9日（木）

内 容：氷上寺子屋、登山+父母座談会

場 所：氷上公民館

参加者：のべ185名

小野地区

主 体：小野自治会を中心に実施。（管内台・管内団体も一緒に）

日 時：夏 7月26日（木）8月8日（水）8月9日（木）、冬 12月27日（木）

場 所：小野公民館

内 容：夏閨宿題教室、防災クッキング、工作等

参加者：のべ164名参加

③支援内容

○地域の主体性を尊重し、地域ニーズに併せたプログラム構成を心掛けた

○3年目となるので、自治会と協議会で運営して行けるよう、見守り、助言等の後方支援。

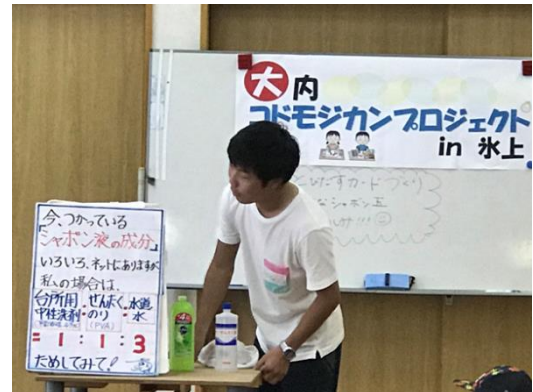
○学生の持ち込み企画と地域をコーディネート

○中学校へのボランティア募集の依頼

○今年度から地域にかわら版を作成してもらうための広報の打ち合わせに参加

④成果

・4地域で461名が参加。参加地域は6地域から4地域へと減少したが、のべ参加者数は増加しており、1地域が充実している様子が伺える。継続実施の地域はそれぞれの地域のカラーが出て、無理なく実施する体制が整ってきている。



- ・地域でかわら版を作成する人材が見つかった。
- ・さぼらんてのインターンシップ学生による企画運営は、地域にとっても学生にとっても充実したものとなった。
- ・一地域では、子どもの数が少なく、子ども会がない近くの地域も対象にして実施されたことも大きな成果。

(2) さぼカフェ (3 回開催)

多様な団体や関係者を集めて行うさぼカフェ。今年度は、「ひきこもりから社会とのリコネクション（再接続）を考える」をテーマに、関連組織とともに考える場を設け、出てきたアイデアを実現するためのチームづくりを目指した。

第1回 日 時：5月25日(金) 10:00~12:00

場 所：さぼらんて 参加人数：14名

参加団体：認定 NPO 法人支えてねネットワーク、ブルーライト山口、カケルタス、パーソナルサポートセンター、ほうふ若者サポートステーション、NPO 法人ドリームファクトリー、山口市地域福祉課、山口市障がい福祉課、山口市協働推進課、さぼらんて

内 容：自己紹介、ひきこもり体験談、保護者の思い、現場の課題
ワークショップ：ひきこもり支援でどんなことができるのか？

第2回 日 時：6月22日(金) 10:00~12:00

場 所：さぼらんて 参加人数：14名

参加団体：認定 NPO 法人支えてねネットワーク、ブルーライト山口、カケルタス、パーソナルサポートセンター、ほうふ若者サポートステーション、NPO 法人ドリームファクトリー、山口市地域福祉課、山口市障がい福祉課、山口市協働推進課、さぼらんて



内 容：前回の振り返り
ワーク① ケース検討を通じて互いの役割の理解
ワーク② 2 テーマに分かれてグループワーク
・ ひきこもりから復帰しやすい環境づくりに必要なこと
・ これがあれば次につなげやすいと思う機能

第3回 日 時：12月11日(火) 10:00~12:00

場 所：さぼらんて 参加人数：16名

参加団体：認定 NPO 法人支えてねネットワーク、ブルーライト山口、カケルタス、パーソナルサポートセンター、ほうふ若者サポートステーション、NPO 法人ドリームファクトリー、まきはら病院、山口市社会福祉協議会、山口市健康増進課、山口市地域福祉課、山口市障がい福祉課、山口市協働推進課、さぼらんて

内 容：これまでの振り返り
認定 NPO 法人支えてねネットワークからの調査報告
今後の方向性、実行委員会の設立に向けて

2 グループに分かれての情報交換・グループ発表

今後は、認定 NPO 法人支えてねネットワークによる、円卓会議をさぼらなくてお手伝いするという形で実施継続していく。

(3) 小鯖未来カタリバワーク

小鯖地域交流センターと地域づくり協議会が共催で若い人たちを集めた「小鯖未来カフェ」を作年度から実施。その中で小鯖の未来を語り合い、若い人たちの企画が実践につながるようなワークをしたいとの依頼を受けサポート。

1 回目 小鯖未来カフェ おさばのカタリバ

目 的：地域の人々が主体となって、ワークを運営し、学び合い、語り合うことに意義を感じてもらい、地域の事業の目指すものを共有していく。

日 時：9 月 29 日（土）18：00～21：00

場 所：小鯖地域交流センター

参加者：20 名（小鯖 15 名 その他関係者 5 名）

- 内 容：①小鯖地域づくり協議会に聞いて見よう
②小鯖の地域の愛着・誇りについては話す
③竹馬世界選手権の事業の成果を考えてみる



2 回目 小鯖未来カフェ おさばのカタリバ ～小鯖竹馬世界選手権今昔未来物語～

日 時：2 月 21 日（木）19：00～20：45

場 所：小鯖地域交流センター

参加者：26 名（小鯖 20 名 その他関係者 6 名）

- 内 容：①小鯖竹馬今昔物語
②竹馬世界選手権振り返り
③次年度の運営スタッフを増やすには？
④発表



成 果：昨年からカタリバに参加している人

を含め、新たな地域活動団体 TIKUBA-TOMO が結成され、今年度の小鯖竹馬世界選手権の企画・運営を行い、今後も継続する活動となった。

(4) その他地域づくり関連事業

①地域セミナー等協力事業

地域向けセミナー等にのべ 15 回協力。

日付	内 容	場 所	参加者数
4/20	高校生熟議準備会懇親会	かめ福	2 名
4/25	山口市自治研修	防長苑	1 名
6/29	広報紙作成にかかる基礎学習講座	市役所	2 名
8/27-12/1	草莽塾 全 7 回	市内各所	各 1 名
12/21	小郡人ダイアログ紙芝居研修	市役所	1 名
1/11-12	未来を考える座談会事前研修	小郡中学校	4 名
1/18	未来を考える座談会「小郡人ダイアログ」	小郡中学校	4 名
2/21	地域づくりキッカケ見つけ隊 2 1	松政	5 名

2/28	トラブルを防ぐ！情報発信マナー講座	宮野地域交流センター	2名
------	-------------------	------------	----

②地域訪問等

スタッフ5名がのべ40回地域訪問・支援。

日付	内 容	地域	参加者数
7/10-8/27	21 地域情報発信ヒアリング	全地域	各1名×21 地域
5/22	おさば未来プロジェクトキックオフミーティング	小鯖	2名
6/26	大殿コミュニティ協議会 地域ヒアリング	大殿	1名
7/2	小鯖地域づくり協議会 鳴滝地域に聞いてみよう	小鯖	2名
8/17-11/19	ソーシャルマネジメント道場演習	大殿5回	各1名
9/14	とくぢワイガヤ会参加	徳地	1名
9/18	おおどのコミュニティ協議会 広報しくみづくり	大殿	2名
9/27	白石地域づくり協議会 FB 開設相談	白石	1名
10/5	大歳自治振興会 FB ページ立ち上げ支援	大歳	1名
10/10	徳地ワイガヤの会 ミッション整理	徳地	1名
10/25	小鯖&大殿隣の芝生 ワーク	小鯖	2名
11/30	ワイガヤ草莽塾プレゼン事前検討会	徳地	1名
1/8-3/6	大内コドモジカン広報会議（1）	大内3回	各1名
1/25	白石地域づくり協議会 FB 開設支援	白石	1名

③商店街広場活用ワーキング

山口市都市整備部都市整備課からの依頼により、商店街に平成31年7月に設置する予定の多目的広場について、関係する市民活動団体6団体に声掛けしてワークショップ開催のお手伝いをした。

日 時：9月4日（火）10：00～12：30

場 所：さぼらんて

参加者：市民活動団体6団体、行政担当者2名、
タウンマネージャー1名、コンサルティング会社1名

関連事業 11月20日（火）多目的広場交流会でのワーキングの報告、ワークにも参加。

3月24日（日）開催の山口市まちなか広場デザイン会議のワークショップやシンポジウムのパネリストに参加団体を調整。



（5）その他のネットワーク

団体の主体性を尊重し合い、有機的な効果を生み出すための自発的なネットワークへの環境づくりを心がけ、また、今年度は特に企業とも連携しつながりを広げた。

①市民活動団体行事への参加

団体主催のセミナーや行事に参加し、ブログ等に紹介していった。

②商店街との連携

・商店街のイベントへの協力、団体との調整、ペナント張替などに参加。また、サンデー山口にPR掲載。

・商店街主催の防災訓練への参加。

③ 視察等の受け入れ

県内：周南市市民活動支援センター、山口県社会福祉協議会
やまぐち街なか大学～自分さがしツアー～

④ 山口市社会福祉協議会地域福祉担当との連携

連絡会議を2回、研修参加報告会等も実施する他、さぼカフェに参加を呼びかけた。コーディネー
ト力強化に向けてのロジックや研修報告会などにも声掛けしていった。

⑤ 関係各所との連携に向けて、以下のとおり関係会議等に参加。

【市民活動支援県域会議】

会議名	主 催	日付	場 所	参加者
県民活動ネットワーク会議	県民活動支援センター	5/23	パルトピアやまぐち	2名
		3/15	山口市男女共同参画センター	2名

【審議会等】

会議名	主 催	日付	場 所	参加者
山口県県民活動審議会	山口県	6/19 9/13	山口県庁	各1名
山口県地域福祉課題提言部会	山口県社会福祉協議会	8/1 1/22 3/25	山口県社会福祉協議会	各1名
山口市生涯活躍のまち協議会	山口市	11/2	防長苑	1名
コミュニティビジネス応援事業助成選考審査委員会	宇部市	11/21	宇部市役所	1名
地域経営型地域づくりに向けた中間支援者機能検討部会	山口市	2/14	山口市役所	1名

6 市民活動団体事務局支援

専属の職員や拠点を持たない団体が活動しやすいように支援。

(1) 市民活動団体登録制度の運用

○平成30年度末 登 録 団 体 数：311団体（前年度307団体）

＜NPO法人44（内認定NPO法人4）団体、
その他の法人5団体、任意団体262団体＞

新規登録団体数： 8団体

解 散 団 体 数： 4団体

(2) 登録団体へのサービス提供

①場の利用による支援

○団体BOX利用

要望のあった団体に、その都度設置した。

利用団体数：75団体

○印刷機材の提供

利 用 件 数：209件

利用団体数： 37団体

利用団体数： 26団体

利用件数：24件（延べ利用日数46日）

利用団体数：8団体

②事務局機能の代行による支援

郵送物等の受け取り、イベント・講座等の「連絡取次窓口」として、市民活動団体事務局機能を一部代行。イベント・講座等の「連絡取次窓口」利用件数：21件

③ 広報支援

○「さぽらんての広報紙」発送時の同封サービス

「さぽらんての広報紙」送付時に、登録市民活動団体の情報紙やチラシを同封して送付した。

なお、送付作業への協力を得ることで、協力団体同士の情報交換を併せて実施。

利用団体数：29団体（偶数月発送作業）

○マスコミ等への広報活動の助言

市民活動団体行事等において、随時、マスコミ等への記者配布等の助言を行った。

○ホームページの団体行事カレンダーへの掲載

持ち込まれた、団体のイベントちらしなどの情報は全て、ホームページの団体行事カレンダーに反映した。

④機材貸出による支援

貸出機材件数：162件

□ワイヤレスマイク一式	9件	□マルチプロジェクター	16件
□スクリーン	4件	□パネ	3件
□イーゼル	15件	□長机	23件
□延長コード	8件	□台車	3件
□イス	65件	□その他	15件

7 その他の事業

(1) 館内募金箱の設置

東日本復興支援のため、さぼらんででは寄付やカンパを募り、東日本復興支援活動をする市民活動団体へと配分しました。

寄付金総額 36,551円

寄 付 先 ①りす会山口
 ②福島～山口いのちの会
 ③山口災害救援

上記団体に12,000円ずつの配分

Ⅲ 運 営

1 職員体制

職員の内外研修により市民活動のみならず、地域づくりへの支援力の向上に努めるとともに、毎月の職員ミーティングにおいて、事業企画や課題への意見交換を行い、支援力を磨き、多様な団体支援に対応できる体制を整えた。また、ローテーション勤務により平日については4～6名、休祭日については2～3名の職員配置を確保し、車の乗り入れ可能な開館1時間前の9時から対応した。

○事業スタッフ6名（常勤2名非常勤4名）、広報スタッフ2名、学生スタッフ8名（インターンスタッフ含む）

2 意見聴取

「さぼらんて」への意見・要望を、下記のとおり随時聴取し、運営の参考とした。

○市民活動団体来所時及び相談対応時における意見の聞き取り。

○「さぼらんてだより」同封作業時に協力市民活動団体から聞き取り。

○講座開催時の参加者アンケートによる把握。

○ええやん新聞における「モニタースタッフへのヒアリング」、「読者アンケート」を実施し、これまで市民活動と関わりのなかった人の意見の聞き取り。

○団体訪問や取材時における団体運営課題などの聞き取り。

○インターンシップ時にもワークを行い、幅広い世代の人と社会課題意識を掘り下げ。

3 定例連絡会等

「さぼらんて」設置者の山口市協働推進課と運営NPO職員と、よりよい市民活動支援に向けて、連絡会を実施。事業実施におけるスムーズな連携、市民活動支援の意義の共有などができた。このほかにも、小郡ダイアログ、協働推進課主催の地域に向けた研修地域づくりきっかけみつけ隊、情報発信力の講座の企画・調整・当日協力をしていった。その際に事業担当者や協力者と随時打ち合わせを実施した。

【協働推進課情報交換会等】

日付	内 容	担当課	さぼらんて
5/21	年度事業について	3名	5名
7/9	地域情報発信訪問について	2名	5名
10/16	地域情報発信ヒアリング振り返り会	2名	4名
3/19	さぼらんて移転について	2名	4名

4 職員研修

中間支援力向上のために、内外多数の講座・研修に参加し、参加後は職員間で内容を共有する時間を持った。参加講座・研修34回

➤ 研修等一覧

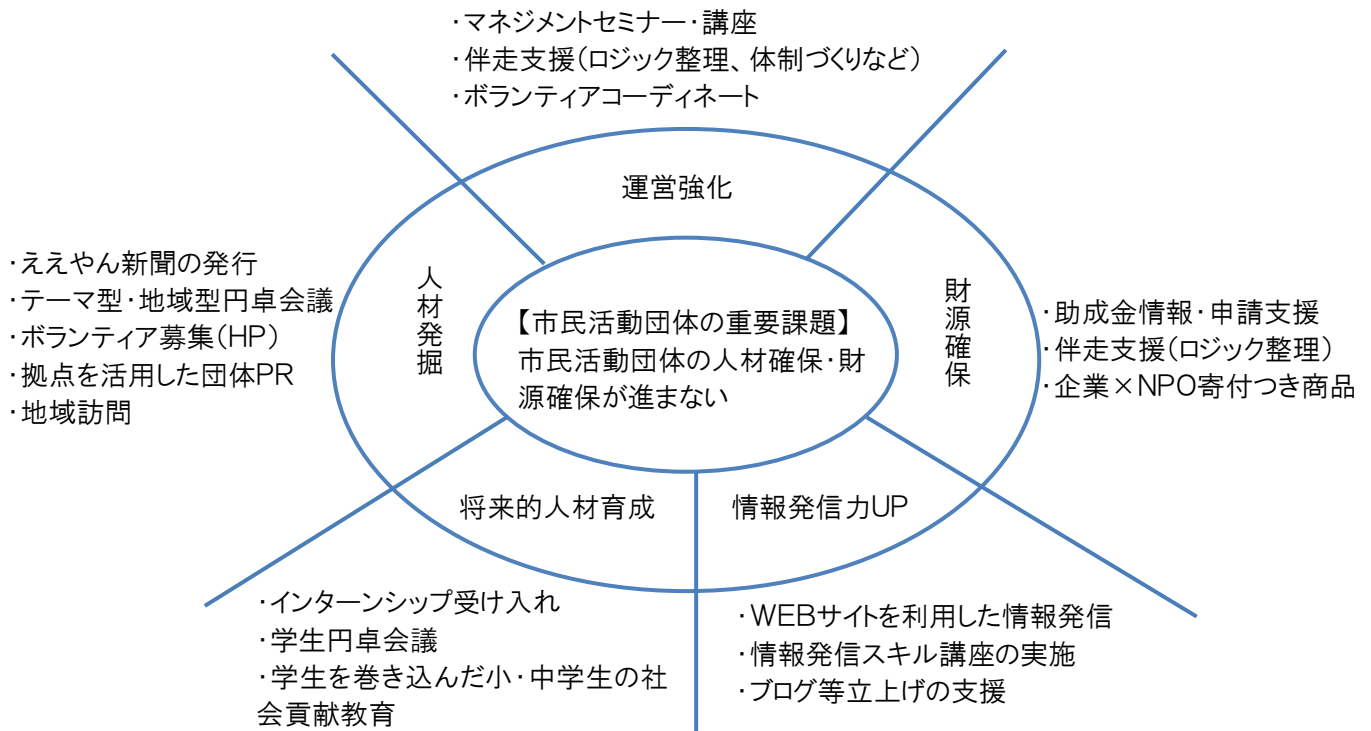
①運営支援のための講座・研修等

日時	内 容	主催	場所	参加者
4/21	中国 5 県中間支援組織連絡協議会 2018 春の合同研修	NPO 法人岡山 NPO センター	岡山「きらめきプラザ」	2 名
4/26	広報研修(大草氏)	さぼらんて	さぼらんて	2 名
5/29	JT NPO助成金交付式	JT	グランドホテル	2 名
6/16	大学生向けボランティア説明会	山口県	パルトピア山口	1 名
6/21	NPO法人の決算報告 & 事業報告	県民活動支援センター	さぼらんて	6 名
6/22	NPO 法勉強会	さぼらんて	さぼらんて	6 名
6/27	周南市地域づくり視察研修	さぼらんて	周南市	5 名
7/2	市町社協地域福祉・ボランティア担当者研修	山口県社会福祉協議会	山口県社会福祉協議会	1 名
7/2	山口県ソーシャルビジネスセミナー プレゼン会	山口県	パルトピア山口	1 名
8/10	山口市ふるさと創生推進事業補助金認定プロジェクト発表会	山口市	Mirai365	1 名
9/11	ファントレディング研修	さぼらんて	さぼらんて	5 名
9/29	ファシリテーショングラフィック・ステップアップ講座	人間科学研究所	広島市	1 名
10/23	県民活動フェスタ	山口県	山口きらら博記念公園	3 名
11/17	伝えるコツセミナーin 福岡	福岡市市民活動支援センターあすみん	福岡市あすみん	2 名
12/13	NPO事務局基盤強化セミナー2018	県民活動支援センター	県民活動支援センター	3 名
12/26	ソーシャルマネジメント道場振り返り会	支援者有志	県民活動支援センター	
1/11	社会福祉における NPO の意義と課題	山口県立大学	山口県立大学北キャンパス	2 名
3/2-3	全国ボランティアコーディネーター研究集会 2019	JVCC2019 実行委員会	京都大谷大学	3 名
3/15	NPO の労務～基礎編～	県民活動支援センター	山口市男女共同参画センター	2 名

②地域づくりや個別のテーマ、ワークの支援のための研修

日時	内 容	主催	場所	参加者
7/28	県域でのひきこもりに関する円卓会議	認定 NPO 法人支えてねっとワーク	小郡地域交流センター	2 名
8/30-1/21	未来の地域づくりマイスター養成プログラム(第 2-6 回)	NPO 法人ほほえみの郷トイトイ	NPO 法人ほほえみの郷トイトイ	各 1 名
2018/6/26	ブルーライト山口総会立ち会い	ブルーライトやまぐち	さぼらんて	1 名
11/30	中学生未来会議 2018	NPO 法人ほほえみの郷トイトイ	阿東中学校	2 名
1/17	山口市災害ボランティア研修会	山口市社会福祉協議会	山口県総合保健会館	3 名
1/19	住民が創る地域運営組織と人材育成	山口市	山口市南総合センター	2 名
1/24	NPO 法人みんなの集落研究所事業報告会	NPO 法人みんなの集落研究所	岡山市勤労福祉会館	1 名
2/8	防災士研修～避難者の多様性を考える知ってほしい アレルギーについて	山口市防災士会	名田島地域交流センター	1 名
2/12	地域の未来人口推計データの作り方・活用方法	県民活動支援センター	さぼらんて	5 名
3/22	地域伴走スキル向上塾	県民活動支援センター	商工会館	4 名
3/22	地域を動かす未来づくり塾	県民活動支援センター	商工会館	3 名

Ⅳ 今後に向けて



平成 31 年度も「情報発信の充実」「NPOのマネジメント支援」「課題をテーマにした話し合いの場づくり」「若者の巻き込み」をテーマに支援力を高め、併せて地域訪問を実施しながら、地域支援の道を模索し「誰もが安心して心豊かに暮らせる山口市」へ貢献していく。